

区介護保険課からの 要望事項について

仙台市健康福祉局介護保険課

はじめに

■ 本研修資料について

- 各区介護保険課より問い合わせが多い項目や特記事項の記載についての依頼事項について資料として作成しております。今後の特記事項の記載についての参考にしていただけますと幸いです。
- 詳しい選択ポイント等につきましては認定調査員テキストをご参照ください。

第2群 生活機能

■ 2-5 排尿 2-6排便

➤ 特記を詳しく記入してほしい

- ・ 選択肢が「介助されていない」であっても、毎日起こりえる行為であるため、一次判定には見えなくとも、審査会委員は特記事項より介護の手間が発生していると読み取ることがある。なるべく詳しく記入してほしい。

特記事項記載のポイント

- ・ 介護認定審査員としても特記事項の記載を注意している個所であるため数日でも介助が発生している場合はなるべく詳しく記入する。

記載例：2-5 排尿

- △ 介助なく排泄する。
- 介助なく排泄するが、月に数日体調が悪いときなどは、介護者である妻が後始末をしている。

第4群 精神・行動障害

■ 4群全て

- 特記の記載内容が不足・記載がないことが多い
 - ・ 特に頻度については、わかりやすく記入をしてほしい。
（「週に1回以上ある」「月に1～2回ある」など）
- 頻度の記載とチェックが一致していないことがある
 - ・ 「週に1回以上」⇒ ×「2.ときどきある」 ○「3.ある」
 - ・ 該当しないものの、特記のみ記載する場合は「該当はないが～」や「定義には当てはまらないが」など記載してほしい。

特記事項記載のポイント

- ・ 選択した選択肢に関わらず、介護の手間が発生している場合は、具体的な介護の手間の内容と頻度を記載すること。

第4群 精神・行動障害

■ 4-8 落ち着きなし

- 「家に帰る」という意思表示がなくても該当ありになっている
- ・ 「家に帰りたい」という意思表示と落ち着きのない状態の両方がある場合のみ該当する。

特記事項記載のポイント

- ・ ただ単に落ち着きがないだけでは該当にならないため、「家に帰りたい」という意思表示があるか確認する

記載例 : 4-8 落ち着きがない

- × 一日に何度も落ち着かなくなる
- 一日に何度も「家に帰りたい」といい落ち着きがなくなる。毎日ある。

第4群 精神・行動障害

■ 4-12 ひどい物忘れ

➤ 特記の記載漏れが多い

- ・ 該当がある場合には必ず内容と頻度を記載する。
- ・ 認知症の有無や知的レベルは問わない。ひどい物忘れによりなんらかの行動をとる、または周囲が対応しなければならない場合に該当する。

特記事項記載のポイント

- ・ 3－4短期記憶と関連する。短期記憶が問題ある場合は記載する
- ・ 寝たきりで認知症もあるが意思疎通が全くできない場合は該当しない

記載例 : 4-12 ひどい物忘れ

- × 食事をしたことを覚えていないため該当あり
 - 食事をしたことは覚えていないが、しつこく食事を要求するといった行動はないため該当なし
-

第4群 精神・行動障害

■ 4-14 自分勝手に行動する

- 場面や目的からみて不適当な行動でないのに該当あり
 - ・ 性格的に「身勝手」「自己中心的」等のことではなく、場面や目的からみて不適当な行動があるかどうかで選択する。
 - ・ 目的があり行動している場合は該当しない。

特記事項記載のポイント

- ・ 「4-11 物や衣類を壊す」に関連する場合には合わせて記載すること
- ・ 「家に帰る」と落ち着きがない場合には「4-8 落ち着きなし」に記載

記載例 : 4-14 自分勝手に行動する

- × 月に数回「家に帰る」と車いすから立ち上がることがある
- 月に数回「家に帰る」と車いすから立ち上がることがあるが
場面から見て不適当ではなく該当なし

第5群 社会生活への適応

■ 5-1 薬の内服について

- 「薬の内服」について「一連の行為」の介助があるかどうかの記載が不足している
- ・ 施設職員が薬を用意するが本人が薬を自分で口に入れる場合は「一部介助」となる。

特記事項記載のポイント

- ・ 「薬の内服」とは、薬や水を手元に用意する、薬を口に入れる、飲み込む(水を飲む)という一連の行為のことである。一部の行為の介助は「全介助」とはならない。

記載例 : 5-1 薬の内服

- × 施設職員が管理している。「全介助」を選択
- 職員が薬を用意し、薬を口の中まで入れている。「全介助」を選択

第6群 過去14日間にうけた特別な医療について

■ 6群全て

➤ 特記の記載を必ずしてほしい

- ・ 該当の医療行為にチェックがあっても特記事項の記載がないことがある。一次判定に大きく影響するため特記は必ず記載をすること。

特記事項記載のポイント

- ・ 医療従事者が行っているか/過去14日以内に受けているか/急性期の対応でないか以上の3点が分かるように記載する

記載例 : 6-1 点滴

該当なし: 1週間前に急に発熱したため、病院で点滴を受けた。急性期の治療であり、継続性はないため該当なし

該当あり: 病気の治療のため週に1回通院し継続して点滴をうける。

第7群 障害高齢者・認知症高齢者の日常生活自立度

■ 選択したランクを必ず記載してほしい

仙台市介護保険課作成の「認定調査票のチェックポイント」では判断根拠、選択したランクを記載することとしている。誤ったチェックをしていることもあるので記載願いたい。

■ 選択したランクは判定の基準を参照しているか

調査員テキストの判定の基準などを参照し選択しているか。調査員によって選択したランクに差があることがある。

認知症高齢者の日常生活自立度を身体介護頻度から選択しているような記載内容のこともある。

特記事項記載のポイント

- ・ 判定の基準を参考にしながら、判断した根拠、選択したランクを記載すること

記載例： 7-2 認知症高齢者の日常生活自立度

7-2: 食事をする際や、薬の内服等に声掛けを要するため「Ⅱa」を選択。

その他調査票の記載について

■ 特記事項の記載について(1)

- 文字の記載はなるべく丁寧に、誤字脱字に注意
 - ・ 特に数字などを小さく記載すると、スキャニングの際に読み取れずエラーが発生します。文字の記載は枠内に収まるように記載をお願いします。
 - ・ 特記事項について、誤字脱字があったり印刷した文字が切れているものがあります。審査会資料にそのまま使用され、介護に携わる職業以外の委員も閲覧するため、なるべく送付前にチェックをしてから区に送付していただけると助かります。
- 同一項目の特記事項はページをまたがないように
 - ・ ページをまたいでしまうと読みづらくなってしまいます。審査会資料としてもそのまま使用されます。ページをまたがないよう記載願います。

その他調査票の記載について

■ 特記事項の記載について(2)

➤ 記載事項は順番に

- ・ 特記事項は1群から順番に記入をお願いします。記入漏れで最終ページに記載されていることがあります。審査会の際に委員の方が確認しづらくなってしまいます。

➤ 専門用語・略語の記入は出来る限り避けて

- ・ 審査会委員は全てが介護に携わる職業ではありません。介護の際に使用されている専門用語・略語では伝わりづらいこともあります。(例:SS・KP・特浴など)

➤ 記載した選択肢は正しいか？

- ・ 「～のため4を選択」と記載されているものが選択肢にない番号のこともあります。提出前に改めて確認をお願いします。

その他調査票の記載について

■ その他調査票の記載について

➤ 前回と比較しての介護の手間量チェック

- 更新申請の場合にチェックしていただく「前回の調査時点と比較しての介護の手間の増減」が漏れていることがあります。審査会委員もこのチェックを二次判定の参考とする場合がありますので、特に差し込みで印刷をした場合には、最後に確認をしてから送付をお願い致します。

➤ ページ番号は忘れずに記載

- 特記事項の順番が分からなくなることを避けるため、記載願います。記載は(○/総ページ数)で記入をお願いします。